

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 11 月 27 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473900599		
法人名	社会福祉法人 成寿会		
事業所名	グループホーム 大浜		
所在地	広島県呉市豊浜町大字大浜字深田482番1 (電話) 0823-68-2626		
自己評価作成日	平成27年10月13日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=3473900599-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=3473900599-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成27年11月27日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

日常生活の中で利用者の意思及び人格を尊重し家庭の延長としてその人らしい安心した生活ができるように支援しています。利用者の体調管理及び下肢筋力をつける為に、立位・歩行訓練や体操等を取り入れ天候の良い時には町内に散歩に出掛け、会話をするようにしている。季節行事としてお正月やお花見、他事業所と合同で大浜秋祭りを行ったり地域のお祭りや行事に参加して利用者の方に喜んでいただけるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム大浜は、旧小学校跡地で周囲は民家が点在し、ミカンとレモン畑に囲まれていて自然豊かな環境に位置している。窓からは山々と瀬戸内海が一望でき、とても穏やかさを感じられる。老人保健施設と併設されたグループホームで、管理者や職員には認知症ケアのベテランが多く全体的にケアレベルも高い。利用者及び家族の気持ちや要望を取り入れた利用者寄り添うケアを目指しているため、家族から信頼を得ている。利用者それぞれの持てる力を発揮し、お互いで支え合いながら“おいしく食べる・ぐっすり眠る・心地良い排泄”を大切にしている。併設の老健やディケアと行事の交流があったり、幼稚園の定期訪問の交流もある。又、利用者は日常的な散歩や大規模な夏祭り「大浜祭り・豊島祭り・花祭り」等、地域の祭りに職員と出かけ楽しんでいる。施設の畑で園芸療法を採り入れ、職員・利用者と共に花や野菜を育て、収穫した野菜を調理して季節感を感じながら味わいを楽しんでいる。

グループホーム大浜(あび)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は大きく書き出し、常に職員の目の届く所に表示している。	グループホーム大浜は「利用者の意思及び人格を尊重し家庭の延長としてその人らしい安心した生活が出来るよう支援します」を事業所の理念として掲げ、朝礼時に唱和し実践につなげている。温かく家庭的な雰囲気である生活を実現する為、「目配り・気配り・思いやり」を合言葉に日々の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の祭りや行事には参加させていただいている。地域の幼稚園から園児が定期的に訪問してくれている。	自治会・町内会に入っていて、大浜祭り・豊島祭り・花祭り等地元のお祭りに参加し交流している。幼稚園児が定期的に訪問され歌や踊り、又、首飾りの作品等を持参し、利用者で交流し大変喜ばれている。	今後さらに地域行事に積極的に参加され地域の方と交流される機会を増やし継続される事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	自由に見学できるよう常に開放しており、地域の行事やお祭り等に積極的に参加し支援の理解に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二か月に一回実施している。地域からの疑問や要望も伺い、それに沿うよう心掛けている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、民生委員、自治会長、安芸灘地域包括支援センター職員・呉市福祉保健課・居宅の職員・家族代表等が参加され、現状報告・行事報告・事故報告・意見交換等を行っている。出席者の皆様から評価・意見・要望等を頂き、会議で検討しサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議に参加して頂き、相互に連絡しあっている。	市担当者へは色々な報告書類で報告を行っており、利用者の入退居や事故の報告も行っている。又、運営上や介護保険での不明な点は積極的に市の担当者と連絡を取っている。地域包括支援センターから空き室の問い合わせ等があり、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の状態により安全上必要な場合は家族の同意を得て使用している。	身体拘束をしない事は管理者及び職員は熟知しており、日々の見守りに重点を置いて、一人ひとりの動きに注意を払って見守っている。身体拘束についての研修も年に1回は実施して、あらためて身体拘束の弊害を認識し拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所内研修を行い、日常の介護業務の中で利用者に対する声掛けや態度に注意を払い虐待防止に心掛けている。		

グループホーム大浜(あび)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるような支援している。	事業所内研修を行い、家族からの相談があれば対応をしていく。		
9		契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前に当園を見学して頂き理解を得ている。 また、ご家族の来園・面会・アンケートを利用し苦情・疑問を伺っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常生活の中で常に利用者の声に耳を傾けカンファレンスや日々の申し送りで意見交換を行っている。	家族の来訪時には、家族が話し易い様に職員から笑顔で積極的に話しかけて信頼関係を作るようにしている。又、玄関に御意見箱を設置し家族の面会時には「無記名ですので御意見お願いします」と声かけし意見を聞いている。請求書送付時に、利用者の写真を2枚と現況便りを書き施設便りと一緒に送り、家族の意見・要望を聞いている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の業務や申し送りの中で意見を聞き、改善するようにしている。職員用の意見を箱を玄関に設置している。	管理者は普段から職員との対話を大切にしており、職員も意見を言い易い環境にある。連絡ノート・御意見箱・ミーティングや勉強会等でも意見を収集し、職員から出た意見で「自家用車通勤」「エアコンの修理」が可能になるなど、職員の意見や提案が反映されている。	外部研修に参加される事が少ない様なので、職員のレベルアップを図る為にも、外部研修に積極的に参加される事を期待します。
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	定期的に理事長視察があり要望を聞いている。		
13		○職員を育てる取組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個人研修や法人外の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同一法人の事業所とは頻りに交流しているが、他法人の事業所とは交流していない。		

グループホーム大浜(あび)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前には本人の希望を聞くようし、入所後もスタッフが頻回に声掛けを行い少しでも早く慣れてもらえる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前にご家族と連絡をとり、当グループホームへの希望等を伺っている。入所後は入所してからの様子を電話連絡しご家族に安心して頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当グループホームのみならず、特養や老健の入所も視野に入れて本人に適したサービスや家族からの要望も取り入れるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者の方の話を常に傾聴し、人生の先輩としてアドバイスを受け日常生活に取り入れている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の意見を伺い、それに添って日常の声掛けや生活を行うように心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	島内の方は受診時に顔馴染みの方と話をしたり、島外の方はドライブや外出・散歩を促している。	利用者の昔なじみの友人やデイケアサービスに来られた友人がグループホームに面会に来られ、職員からのお茶の接待を受けながら居室や応接セットのソファで歓談している。近隣の知人がおはぎやスイカ等差し入れて下さり、馴染みの人との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共同生活の中で本人の意思を尊重し、利用者同士の交流を図る支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	連絡があれば相談に応じている。		

グループホーム大浜(あび)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプランの立案時に必ず本人の意見を聞き、反映させている。	日常生活や本人の表情や行動から思いや意向を把握している。申し送りノート等で職員全員で情報共有を図っている。本人や家族からの要望が無くても職員から情報提供や支援の提案を行ったり、本人の思いを家族に話したりして本人本位の方向になるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族や在宅時のケアマネ・入所前の施設ケアマネ等との連携をとり、本人の生活歴を把握しアセスメントの充実を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々、利用者の発する言葉や行動・心身状態を記入し職員間で情報の共有を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	申し送りやケアカンファレンスで意見を求め、現状に即したプランを作成している。	3ヶ月毎にカンファレンスとケアプランの作成を行っている。本人・家族等、医療関係者・職員と話し合いながら、又、日常の支援の中で課題や気付き等を随時報告し、話し合い現状に即したケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケースや介護日誌に毎日記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	グループホームや老健・特養等、家族と本人の希望に添った支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	自治会長や民生委員の方から情報をいただき、地域の行事に参加している。地域の幼稚園の訪問を受け利用者とのふれあいの場を持っている。火災訓練には消防署と連携し指導を受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	家族と本人に相談し、かかりつけ医や病院を設定している。	利用者の希望するかかりつけ医への受診が主体で、施設の協力医療機関を利用する方もいる。協力医は訪問診療で2週間に1回来られ、耳鼻科・皮膚科等の受診は家族にお願いしている。歯科については往診がある。夜間及び休日の診療は救急対応となっている。受診結果は電話や来訪時に家族等に報告している。	

グループホーム大浜(あび)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師やかかりつけ医の看護師に相談し、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には園での情報提供を行い、また退院時には法人内で受け入れる体制を作っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時にターミナルケアを行っていない事や、重篤化した際の支援について説明を行っている。	契約時に利用者・家族の意向を聞き取り、事業所のできる事できない事を説明している。現状では看取りをしない方針を説明している。又、重度化や終末期に向けた事業所の支援として同法人の施設に移動して対応する旨を説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	職場内研修で実施しているが、定期的には行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回昼夜を想定した避難訓練を隣接の老健と合同で行っている。	避難訓練の年間計画を立て年2回実施している。1回は消防署立会いの下、併設の老健と合同で行っている。1回は自主避難訓練を老健と合同で行い、避難・通報・初期消火等の訓練をしている。地域の自治会長・町内会長へ連絡し協力体制をお願いしている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	声掛けや対応に不適切な事があれば、その場で注意している。記録は関係者以外には公表していない。	法人研修や内部研修で利用者の人格を尊重した対応、個人情報の責任ある取扱いについて研修している。利用者同士互いに協調できない事もあるが、そういう時は職員が寄り添い、なるべくプライドが傷つかない様に対応している。職員同士の連絡ノートを作成し記入し注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常の会話の中から思いや希望を聞き出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その人のペースに合わせてリズム正しい生活が出来るように支援している。		

グループホーム大浜(あび)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している。	衣服の選択も本人の希望を聞いて着用していただくようにしている。本人の希望があれば美容院を利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備や後片付け等を一緒に行っている。	食材は併設の老健と同じものを使用し、メニューは職員が考え利用者と一緒に野菜を刻んだり皮むきをしたりと本人の出来る範囲で調理している。時には巻き寿司やおはぎを作ったりしている。年1回敬老の日には、地元の漁師さんの協力で地元で採れた活魚の刺身を提供している。敷地内に畑があり、利用者が育てた大根やキャベツ・なすび等を食卓に上らせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	摂取量のチェックで食欲を測り、低下している方にはかかりつけ医に相談し、栄養補強を検討したり嚥下が困難な方にはトロミやミキサー食にて対応し水分補給には十分に気を付けるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアが自力で出来る方は自分でして頂き、出来ない方は介助を行っている。月に1・2回、口腔ケアの往診を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	快適に過ごして頂けるように、可能な限り布パンツに切り替えが出来るようにしている。	排泄チェック表を作成し、お一人おひとりの力や排泄パターン・習慣・水分摂取量等把握し適時声掛けを行い、トイレでの排泄に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日排便確認を行い、水分補給と散歩・運動等に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	希望により曜日や回数・時間帯の変更はしているが、職員体制上、夜間入浴は難しい。	週3回の入浴を基本とし、洗髪等利用者が自分で出来る範囲はやって頂き、自立を促している。又、適時シャワー浴や清拭・足浴等も行っている。入浴を拒否する方・嫌がる方には、同性対応をしたり、時間や順番、職員を変えたりして入浴して頂くように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	テレビを視たり、ソファで寛いで頂いている。エアコンや寝間着の調整で安眠しやすい環境づくりに心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診記録や申し送りで職員に周知している。不明の場合は薬情書で確認するようにしている。服薬確認時や日々の様子観察で症状の変化に気を付けるようにしている。		

グループホーム大浜(あび)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎月、季節行事を取り入れたり利用者個々の能力を活かしてお手伝いをしていただいている。(調理・洗い物・テーブル拭き・食器拭き・掃除の手伝い等)		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	体調と天候の様子を観て、散歩を行っている。近くに買い物ツアーで出かける事もある。	日々の生活の中で毎日の散歩を取り入れ、地域の方との関わりを持っている。地元のお祭り、皆伝間祭り・大浜秋祭り・豊島祭り・朝鮮史等を見学に出かけている。花祭りでは、お花を持って参加し、婦人会の方が甘茶の接待をされ交流している。地元の小学校・中学校の運動会を見学に行ったりしている。ドライブで県民の浜へお花見に弁当持参で行ったり、JAに買物に行き、カフェにも行ったりして、地域の人々と交流している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理は職員がしているが買い物をする機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人自ら手紙を書く方は限られているが、手紙を書くよう声掛けを行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室に障子を貼り柔らかな光で入居者を和ませている。花が好きの方には花を活けて貰い季節感を味わっていただいている。	共有スペースでは常に清掃・温度・湿度管理を行い、清潔で過ごしやすい環境作りをし、テーブル、椅子の他にソファを配置し、思い思いの席に座りくつろいで居心地よい空間作りをしている。日光の光を十分意識してカーテンの開閉・照明に留意したりフィルムで光の調整をし快適に過ごせるように工夫している。又、季節を感じられるように季節の花を飾ったり利用者が作った作品を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアーや食堂にソファを置き、各自で寛いで頂ける空間を創っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	希望者には馴染みの家具を持ち込んで頂き、自由に思い出の写真等を飾っていただいている。	利用者が落ちつける部屋になる様に家族と相談しながら環境作りをしている。利用者が自宅で生活していた時の馴染みの家具や調度品・季節の花・家族の写真・飾り物等を持ち込み自宅から継続した環境の中で生活する事が出来るように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物はバリアフリーとし、廊下やトイレ・浴室には手すりを設置している。居室の位置が分からない方には大きく名前を貼りだしている。		



グループホーム大浜(でこぼん)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は大きく書き出し、常に職員の目の届く所に表示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の祭りや行事には参加させていただいている。地域の幼稚園から園児が定期的に訪問してくれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	自由に見学できるよう常に開放しており、地域の行事やお祭り等に積極的に参加し支援の理解に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二か月に一回実施している。地域からの疑問や要望も伺い、それに沿うよう心掛けている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議に参加して頂き、相互に連絡しあっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の状態により安全上必要な場合は家族の同意を得て使用している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所内研修を行い、日常の介護業務の中で利用者に対する声掛けや態度に注意を払い虐待防止に心掛けている。		

グループホーム大浜(でこぼん)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるような支援している。	事業所内研修を行い、家族からの相談があれば対応をしていく。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前に当園を見学して頂き理解を得ている。また、ご家族の来園・面会・アンケートを利用し苦情・疑問を伺っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常生活の中で常に利用者の声に耳を傾けカンファレンスや日々の申し送りで意見交換を行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の業務や申し送りの中で意見を聞き、改善するようにしている。職員用の意見を箱を玄関に設置している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	定期的に理事長視察があり要望を聞いている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個人研修や法人外の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同一法人の事業所とは頻繁に交流しているが、他法人の事業所とは交流していない。		

グループホーム大浜(でこぼん)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前には本人の希望を聞くようし、入所後もスタッフが頻回に声掛けを行い早く慣れてもらえる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前にご家族と連絡をとり、当グループホームへの希望等を伺っている。入所後は入所してからの様子を電話連絡しご家族に安心して頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当グループホームのみならず、特養や老健の入所も視野に入れて本人に適したサービスや家族からの要望も取り入れるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者の方の話を常に傾聴し、人生の先輩としてアドバイスを受け日常の生活に取り入れている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の意見を伺い、それに添って日常の声掛けや生活を行うように心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	島内の方は受診時に顔馴染みの方と話をしたり、島外の方はドライブや外出・散歩を促している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共同生活の中で本人の意思を尊重し、利用者同士の交流を図る支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	連絡があれば相談に応じている。		

グループホーム大浜(でこぼん)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプランの立案時に必ず本人の意見や要望を聞き、反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族や在宅時のケアマネ・入所前の施設ケアマネ等との連携をとり、本人の生活歴を把握しアセスメントの充実を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々、利用者の発する言葉や行動・心身状態を記入し職員間で情報の共有を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	申し送りやケアカンファレンスで意見を求め、現状に即したプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の介護日誌やケース記録を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	グループホームや老健・特養等、家族と本人の希望に添った支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	自治会長や民生委員の方から情報をいただき、地域の行事に参加している。地域の幼稚園の訪問を受け利用者とのふれあいの場を持っている。火災訓練には消防署と連携し指導を受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	家族と本人に相談し、かかりつけ医や病院を設定している。		

グループホーム大浜(でこぼん)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師やかかりつけ医の看護師に相談し、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には園での情報提供を行い、また退院時には法人内で受け入れる体制を作っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時にターミナルケアを行っていない事や、重篤化した際の支援について説明を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	職場内研修で実施しているが、定期的には行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回昼夜を想定した避難訓練を隣接の老健と合同で行っている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	声掛けや対応に不適切な事があれば、その場で注意している。記録は関係者以外には公表していない。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常の会話の中から思いや希望を聞き出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その人のペースに合わせてリズム正しい生活が出来るように支援している。		

グループホーム大浜(でこぼん)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣服の選択も本人の希望を聞いて着用していただくようにしている。本人の希望があれば美容院を利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備や後片付け等を一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	摂取量のチェックで食欲を測り、低下している方にはかかりつけ医に相談し、栄養補強を検討したり嚥下が困難な方にはトロミやミキサー食にて対応し水分補給には十分に気を付けるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアが自力で出来る方は自分でして頂き、出来ない方は介助を行っている。月に1・2回、口腔ケアの往診を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	快適に過ごして頂けるように、可能な限りトイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便確認を行い、水分補給と散歩・運動等に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	希望により曜日や回数・時間帯の変更はしているが、職員体制上、夜間入浴は難しい。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	テレビを視たり、ソファで寛いで頂いている。エアコン等の調整で安眠しやすい環境づくり心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診記録や申し送りで職員に周知している。不明の場合は薬情書で確認するようにしている。服薬確認時や日々の様子観察で症状の変化に気を付けるようにしている。		

グループホーム大浜(でこぼん)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎月、季節行事を取り入れたり利用者個々の能力を活かしてお手伝いをしていただいている。(調理・洗剤物・テーブル拭き・食器拭き・掃除の手伝い等)		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	体調と天候の様子を観て、散歩を行っている。近くに買い物ツアーで出かける事もある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理は職員がしているが買い物をする機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人自ら手紙を書く方は限られているが、電話の希望があれば家族に確認をし電話をするようにしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室に障子を貼り柔らかな光で入居者を和ませている。花が好きな方には花を活けて貰い季節感を味わっていただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアーにソファを置き、各自で寛いで頂ける空間を創っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	希望者には馴染みの家具を持ち込んで頂くように話をし、自由に思い出の品等を飾っていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物はバリアフリーとし、廊下やトイレ・浴室には手すりを設置している。居室の位置が分からない方には大きく名前を貼りだしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない



64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム 大浜

作成日 平成 27 年 11 月 28 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域密着型の事業所として地域との交流が少ない	地域の方と馴染みの関係になれるように地域との交流を増やす	地域の行事に積極的に参加して行くと共に地域の方に行事等への参加をお願いする	1年
2	13	社外研修を受ける機会が少ない	職員の資質向上を図る	研修に参加する機会を取り入れる	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。